

緊急事態宣言下の学童保育

新型コロナウイルスの感染拡大の中、対策に気を使いながら子どもたちを預かる放課後児童クラブ（学童保育）や保育の現場が疲弊している。学童は小学校休校が続く地域によっては長時間の開所を強いられ、いつまでこの状態が続くか見通せない。乳幼児が通う保育所ではおむつ替えやたっこが必要で「3密」を防ぐのは難しいとの声が相次ぐ。

——面参照

▽11時間

「終息が見通せず、指導員に疲れが出ている」。福島市で学童保育施設を運営する山

名古屋市内の学童保育で指導員を務める竹内隆人さん（39）は小学校の休校により、勤務が長時間化している。利用する子どもは半数に減ったが、長期休暇の時と同じよう

田和江・福島県学童クラブ連絡協議会会長はため息をつく。

最近まで30人以上いた利用者は現在数人に。よつやく3

に午前8時から午後7時半まで11時間半開所。唯一の正規大阪府吹田市は4月中旬か

感染対策で現場疲弊

子ども「3密」防げず

密は解消されたが「現場は『感染者を出してはいけない』というプレッシャーで精神的に追い詰められている」と話す。子どもの手やおもちゃを拭く消毒液も間もなく底を突く。3月初旬に発注したが、またに入荷の見込みがない。

職員のため、朝5時半に家をでて、学童の子どもたち用の昼食の食材を買ってから出勤。そのまま夜まで働くことも珍しくない。それでも気に掛けるのは子どもたちのことだ。「学童に

間が長期化し「園児のストレス、保護者の負担感の増大が懸念され、虐待につながるケースが出ないか」と危惧する。「3密で、園児も保育士も感染してしまわないかと怖い」。労働組合「介護・保育ユニオン」（東京）には、保育所で働く人たちがこうした訴えが多く寄せられている。持病で感染時の重症化リスクがあるのに、利用する園児が多いため出勤せざるを得ないという人もいるという。

ユニオンの三浦かおる共同代表は「保護者が会社を休めず、結果的に園児が減らず、保育所の感染リスクも減らない。原則休園とし、医療従事者らの家庭の子どもに絞って受け入れるべきではないか」と訴える。